

キャラクター名
佐藤善仁（さとうよしひと）

プレイヤー名

シンドローム	オルクス ソラリス	ワークス	高校生	カヴァー	アカデミア生徒
オプション		年齢	17	性別	男性
覚醒	無知	衝動	解放	初期侵食率	33 %
出自	安定した家庭	経験	大失敗	邂逅	ゴミ

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	24
肉体	0	1	0			1	行動値	4
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	4
精神	2	0	0			2	戦闘移動	9
社会	5	0	0			5	全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	2		交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達	1	
運転:			芸術:			知識:			情報: 噂話	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ: UGN幹部	
コネ: 噂好きの友人	
コネ: 研究者	
コネ: 情報屋	
コネ: 情報収集チーム	
Aランク: サポーター	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タリ	消費
学園天使	P	N		
悪いタイプの藤がいい男が好きそうな女	P 好意	N 脅威		
構っても放っておいてもめんどくさいタイプの女	P 好意	N 不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 12 残り財産P: 6

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
ヨモツヘグリ	1							
効果:								
ポイズンフォッグ	3							
効果:								
アウトブレイク	1							
効果:								
妖精の手	3							
効果:								
C・ソラリス	3							
効果:								
絶対の恐怖	1							
効果:								
快樂の香気	★							
効果:								
虹の香り	★							
効果:								
隠し味	★							
効果:								
元気の水	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

一般家庭で生まれ育った男子高校生で健康優良児。
 幼い頃からお節介焼きで周囲の人間の問題を見と首を突っ込まずにはいられないお人好しだった。
 そのため彼の周囲には良くも悪くも個性的な人間が集まりやすく、特に（男女問わず）ツンデレや露悪的なタイプによく懐かれていた。
 彼の善性を素直に慕う人間も多く、その中には（女殴ったり女のヒモやったりしそうな悪いタイプの）顔の良さにメロついでる者も多い。
 基本的に善人だが女癖が悪いとか女運が悪いとか放って置くとやばい女にばかりいきあたるために女にだらしがないと周囲に見られており、実際にその通りなので本人も苦しげな顔で認める他ない。善ゴモ。
 そんな彼はある日、本人も知らないうちにオーヴァードとして覚醒し、テロ紛いの事件を引き起こした。
 UGN内では有名な『無差別大量オーヴァード覚醒事件』である。
 UGNの尽力によりこの事件はギリギリ世間に知られずすみ、大量に確保されたオーヴァードはUGNの人手不足解消に一躍買って、善仁の処分もギリギリ処刑などは免れたという色々とギリギリな事件であった。
 しかし、当然ながらそのまま日常生活など送らせてもらえるわけもなく、アカデミアへと送られ、現在は能力の制御のため慣れないオーヴァードとしての学園生活を送っている。
 授業態度は真面目で成績も悪くはないのだが、前述の女癖や事件のせい以内申点はボロボロである。

能力: 『暗香菫』《カリゴ・プロディティオ》
 正式なデータとしては『体内で精製した薬品を霧状に広範囲へ散布する能力』と記されている。ソラリスシンドロームのオーヴァードとしてはよく見るタイプの能力である。精神に作用する幻覚剤や興奮剤に似た成分によって攻撃に使用することもできるが、非常に出力が低く戦闘で使うには心もとない。しかし、香りによるリラックス効果、体力回復の向上、味蕾への直接作用、交感神経または副交感神経の活性化などにより、広範囲の人間を癒すリラクゼーション能力は高いとされている。
 条件は『一定以上の体温を保ち続けること』
 フェロモンのように全身から揮発した薬品を霧状に変化させて放つために汗腺が閉じた状態では使用することができない。そのため興奮状態や運動によって体温を保ち続けなければならないが、放てば放つほどに気化熱によって体温が下がるため、維持し続けるのは非常に困難。